

校長室だより
NO. 42
令和元年12月19日

すべては光る

梅園小学校長
たか すりょうへい
高須 亮平

歴史上の人物で、尊敬する人物はいますか？

本校の教務主任は加納隆教諭が務めています。加納教諭は、社会科が専門で、歴史や地理など社会科全般の知識が豊富です。それに関係する逸話などもよく知っています。以前、甲山中学校に勤めていたこともあり、梅園学区には、多くの教え子がいるそうです。ちょうどその方々が、梅園小学校や甲山中学校に子どもを持つ保護者になっているとのことでした。

その加納先生は、毎日、先生たちに教務通信「MISSION IMPOSSIBLE」(A4用紙1枚・両面印刷)を配付して、1日の学校の予定や連絡をしています。その中に、下のような明智光秀の名言が掲載されていたのでした。そこには「自分の信念を貫く」ことであったり、自尊心を高めるため、「他人と比べるのではなく、過去の自分と比べる」ことの大切さが書かれていました。

私は、「明智光秀と言いますと、来年のNHK大河ドラマでも取り上げられますし、加納先生も明智光秀が好きで、光秀の名言を出したのかなあ」と思いながら教務通信を読みました。そして、読み終わると、早速、加納先生にこう聞いてみました。

「加納先生は明智光秀が好きなの？」
すると、加納先生から意外な返事が返ってきました。

「あの生き方は好きじゃないですよ。だから光秀は嫌いです。」

「あれ～。それなら、どうして教務通信に書いたの？」と私。

しかし、そんな生産性のない話を続けていても仕方ないと思った私は、次こう聞いてみました。

「それなら、加納先生は、歴史上の人物で誰が好きなの？」

そうすると、これまた意外な人物の名前が出てきました。教科書にも載っている人物なのですが……。

その名前は おおしおへいはちろう 大塩平八郎 でした。その理由を聞きました。すると、大



明智光秀

自分をほめる
トレーニング
第一回
中島輝

この句は、明智光秀が織田信長を討つため、本能寺へ向かう際に残したものです。「私の思いを知らない人は、何とでも言えはいい。命も、名声も惜しみはしない。」三日天下だった光秀ですが、「人にとり思われようと、自分の信念を貫くぞ」という潔さ、美しさを感じませんか？
自分や自分の行動に価値



「自分の信念を貫くぞ！」
がある、と思う感情を「自尊心」といいます。この気持ち弱くなると、「人に比べて、自分はダメだ」、「周りの

自分が気になって、行動できない」という悩みがでてきてしまうのです。
自尊心を高めるなら「他人」ではなく、「過去の自分」と比べてみましょう。
一カ月前、一年前の自分を思い返し、いまの自分と比較してみると、「あの頃よりも、これはできている」「ここはもっと頑張ろう」という発見があります。やりたいうこと「信念」はつきりしていきます。
「わたしも結構頑張っているな」と自分を認めてあげられたら、それでOK!
あなたの人生は、ほかの誰でもない、あなたのものです！

今月の名言
心知らぬ人は
何にとも言はば謂へ
身をも惜まじ
名をも惜まじ
明智光秀
(不詳～1582)
『永源師権紀年録』出

「わたしも結構頑張っているな」と自分を認めてあげられたら、それでOK!
あなたの人生は、ほかの誰でもない、あなたのものです！

塩平八郎の名言を教えてくださいました。

「身を死するを恐れず ただ心の死するを恐るるなり」

これは、自分の思ったことを貫き通すことの強さを持つという意味です。大塩が貧窮する農民のために乱を起こしたことや、いつも弱い者の立場であったことに揺るぎないことを表していることを、加納先生は話しました。そして、大塩平八郎についてさらに語り始めました。



大塩平八郎（1793～1837）は江戸後期の陽明学者で、大坂町奉行所与力として活躍していました。しかし、それを辞めて私塾の教育に当たりました。天保7（1836）年の飢饉に際しては、奉行所に救済を求めましたが受け入れられませんでしたので、蔵書売って620両（約5千万円）を得て窮民1万軒に1朱（5千円）ずつを分配して救ったということです。そして、翌8年、幕政を批判して大坂で兵を挙げました（大塩の乱）。しかし、敗れて自らの意思を通すために爆死しました。まさに名言のようです。また、敗れて潜伏していたときにも窮民にお金を分けたりしていたということです。このような点に加納先生は尊敬の念を抱いたということです。その後、全国各地で暴動が起こり、江戸幕府滅亡へと時代は進んでいきました。

すると、今度は、加納先生から私に「尊敬する人物は？」という質問が返ってきました。少し困惑しましたが、江戸時代の人物で、窮民を救ったと言えば、何と言っても上杉鷹山と答えました。



上杉鷹山（1751～1822）とは江戸時代中期の出羽国米沢藩（現・山形県米沢市）9代藩主です。領地返上寸前の米沢藩の再生をした江戸時代屈指の名君として知られています。何を行ったかと言いますと、「財政の再建」、「産業の開発」、「精神の改革」の三大改革を成し遂げました。その中では、自ら進んで節約をしたり、毎年1人1升ずつの糶を蓄えさせて飢えをしのご方策をとったりもしました。何よりも領民が生き延びる策をとっていたのです。

「成せばなる 成さねばならぬ 何事も 成らぬは人の 成さぬ成りけり」

これは、多くの人知っている言葉と思います。この鷹山が藩政を進める中で生まれた名言なのです。また、藩主を明け渡しときに詠んだ「伝国の辞」も有名です。

- 一、国(藩)は先祖から子孫へ伝えられるものであり、我(藩主)の私物ではない。
 - 一、領民は国(藩)に属しているものであり、我(藩主)の私物ではない。
 - 一、国(藩)・国民(領民)のために存在・行動するのが君主(藩主)であり、“君主のために存在・行動する国・国民”ではない。この三ヶ条を心に留め忘れることなきように。
- そんな鷹山がいかに領民に寄り添っていたかが分かる逸話が残っています。

ある日、干した稲束の取り入れ作業中に夕立が降りそうで困っていた老婆を、二人の武士が助けました。老婆がお礼に後日、餅を持参したいといったところ、招かれたのは米沢城であり、渡す相手こそが鷹山でした。そして、その勤勉さを褒め褒美に銀5枚を授けました。

侍どころか殿様が稲の取入れを手伝うなど普通では考えられませんが、これが鷹山という人物であったのでした。まさに尊敬に値する人物と思うのです。

このように尊敬する人物がいるということやその名言は、ある面で私たちの心の支えになります。朝早くの梅園小学校の職員室は、時にこのような時間が流れています。